

研究・調査報告書

報告書番号	担当
116	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Increasing alcohol restrictions and rates of serious injury in four remote Australian Indigenous communities オーストラリア原住民の 4 つの離れた集団におけるアルコール制限の増加と重症外傷の割合</p>	
執筆者	
Margolis SA, Ypinazar VA, Muller R, Clough A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Medical Journal of Australia. 2011 May 16; 194(10): 503-506	
キーワード	
オーストラリア先住民、アルコール制限、重症外傷	
要 旨	
<p>目的： オーストラリア原住民の異なった集団における政府のアルコール制限と関連する重症外傷の割合を示すこと。</p> <p>方法： 1996年1月1日から2010年7月31日までのクイーンズランドのオーストラリア原住民の4つの離れた集団におけるアルコールの合法的アクセスにおける変化の前後での、Royal Flying Doctor Service(RFDS)の外傷検索データを用いたエコロジカル研究を行った。アウトカムをアルコール制限の前後での RFDS 検索データによる重症外傷の発生率、検索データによる重症外傷の割合の変化とした。</p> <p>結果： 2002～2003年にアルコール制限が施行されたのち、重症外傷の発生率は初め低下したが、その後さらなる制限が施行される2008年前の2年間で増加した(平均増加、一年に1000人当たり2.34)。この傾向は、2008年の制限の2年後には覆った(平均減少、一年に1000人当たり7.97)。2002～2003年の制限の2年前、2008年の制限の2年前、そして観察期間の最後の2年間(2009～2010年)に、4集団それぞれでの重症外傷の発生率において統計学的に有意な減少傾向があった(4集団を併せるとP値0.001未満)。全体として、重症外傷発症率は2008年の1000あたり30から、2010年の1000あたり14にまで低下し、重症外傷の割合は4集団で有意に減少した。</p> <p>結論： 政府のアルコールの合法的アクセスにおける制限が厳しくなるにつれて、RFDS 検索データによる重症外傷の絶対割合及び比例率は有意に低下した。その割合はこの15年で記録された中で最も低いレベルにある。</p>	